中部 NOW

公益財団法人オイスカ　愛知県支部・中部日本研修センター会報
第３２７号
令和５年新年号
発行：(公財)オイスカ中部日本研修センター
〒470－0328 豊田市勘八町勘八27－56
TEL 0565－42－1101 FAX 0565－42－1103
E-mail: chubutc@oisca.org　http: //www.oisca.org/

新年のご挨拶

オイスカ中部日本後援会　会長　水野　明久

新年を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

ウィズコロナの下で、社会経済活動の正常化が進みつつある一方、ロシアによるウクライナ侵攻を背景としたエネルギー・原料価格の上昇や歴史的な円安は、国民の暮らしや企業活動に大きな影響を及ぼしています。

オイスカ中部日本研修センターにおいては、昨年、2年ぶりに7か国から59名の海外研修生・技能実習生を受け入れ、それぞれの国の将来を担う人材の育成を再開させております。

また、オイスカでは、2030年までに国内外で5万ヘクタールを目標に緑化事業を展開しており、国際的な気候変動対応が喫緊の課題となっている中、その活動はますます重要なものとなってくると考えております。

オイスカ中部日本後援会といたしましても、財政面からの支援を基軸に、オイスカ活動が末永く続くよう、尽力してまいる所存であります。

本年も、会員の皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も県支部にとって良い年に

オイスカ愛知県支部　会長　光岡保之

大名古屋にオイスカの拠点を

明けましておめでとうございます。今年の正月は格別の思いで迎えることができました。まずは昨年が愛知県支部にとして歴史的な一年となったことです。私は県内にオイスカの草の根を張ることを目標にしてきた中で、名古屋市内にオイスカの拠点を作ることができました。名古屋市内東・西・南・北に推進協議会を作り、それをまとめる形で名古屋地区協議会を設置しました。そして名古屋市内で開催されたオイスカデーの中で認証を受けることができました。

本部がアラル海の植林に本腰を

そして本年はオイスカ本部が世界環境問題で負の象徴と言われているアラル海の緑化事業に本格的に取り組むことになりました。これまではオイスカの富樫智さんと私が主催しているNPO法人グリーングラスロッツで進めてきましたが、本年からは本部が組織として覚悟を持って取り組むことになりました。これはNPOグリーングラスロッツとしても百万の味方を得た思いです。しかし課題は山積みしています。本部は10年計画で進めます。そこで愛知県支部としては本部と連携して、秋ごろをめどにアラル海植林ツアーを計画しますので、県内会員の皆様のご参加をお願いいたします。

新年のご挨拶

オイスカ中部日本研修センター
所長　小杉裕一郎

会員・支援者の皆様、新年あけましておめでとうございます。

一昨年は、コロナ感染拡大の影響により海外研修生・技能実習生が一人も入国できないという前代未聞の事態となり、オイスカの人材育成事業の根幹をなす研修事業が停止されるという大変厳しい年でした。

会員様の支援を頼りに臥薪嘗胆の1年でありましたが、昨年5月、ついに研修生・技能実習生入国が叶い、研修が再開されました。農業研修生は、フィリピン・ミャンマー・バングラデシュ・フィジーから4名、国際協力ボランティア研修生はフィジーから1名が来日することができました。

こうした研修センター活動を支えるべく、光岡保之県支部会長が名古屋市の東西南北の各地区と知立地区にそれぞれ推協を発足させるとの方針を示され、10月11日のオイスカデーにおいて、知立推協（鈴木恭子会長）が発足、名古屋北推進協議会の森藤左エ門会長はじめ、名古屋西・堀田由浩、名古屋東・馬淵雅宣両会長様のご尽力により、名古屋西・名古屋東推進協議会が発足、併せて名古屋地区協議会も設立され、財団評議員でもある神野重行氏が会長就任いただきました。

これにより愛知県支部の会員数は全国1位に返り咲き、推協による地域活動で更なる活性化が期待されます。

本年は、予定されている研修生・技能実習生の円滑な入国、充実した研修体制の構築を念頭に、会員の皆様と共にオイスカ活動の根を広げていきたいと思います。会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

四国、広島へ、研修旅行きました

11 月 28 日から 12 月 2 日までの 4 泊 5 日の日程で、農業研修生 4 名が研修旅行に出掛けました。日本文化・歴史の理解を目的に毎年実施しています。奈良・東大寺、法隆寺を訪れ、四国センターに滞在して、四国センター研修生と合同で広島へ。広島県支部様のご支援とご協力で、広島平和記念館・公園を見学、ボランティアさんの詳しい説明をいただきながら、平和の尊さを感じる機会をいただきました。宮島の厳島神社も訪れ、改修工事の終った大鳥居の前で記念写真を撮ることもできました。福山では、元沖縄技能実習生が働く農場を見学、寒風の中で目標をもってチャレンジしている姿に感銘を受けました。四国センターは 9 名の研修生が在籍し、内 7 名が女性です。男性研修生の存在感をかき消すくらいの元気さで、センターを明るくしていました。最後の夜も歌に踊りにとても楽しいお別れ会もしていただき、参加した研修生にとって思い出に残る旅行になりました。ご協力をいただきました四国センター・広島県支部の皆様に感謝いたします。
ありがとうございました。

小杉　裕一郎(筆)

宮島･厳島神社大鳥居前で四国研修生と一緒に

広島平和記念公園･原爆ドーム前で説明を聞く

オイスカ友の会
「愛と絆の集い」開催

オイスカ友の会　会長　佐藤銀弘

今年で第 7 回を数えますオイスカ友の会の「愛と絆の集い」が、去る 12 月 4 日に末野原交流館において開催されました。集いのテーマは毎回「人と地球に愛惜しみなく」を掲げ、回を重ねてまいりました。

今回講師としてお招きいたしました杉浦貴之さんは、彼が 28 歳に腎臓がんと診断され余命半年の宣告を受けつつも、持前の強い気力と周囲の人々の多くの愛によって奇跡的に回復されました。この間の貴重な体験を歌とトークで語っていただきました。

また､杉浦さんの奥様と 2 人のお子様は、オイスカとの縁で現在はマレーシアのサバ州に短期留学されています。当地の寒村への支援は 20 年におよび、今回は水も電気も不都合な小さな村に井戸を提供したいとのことでした。この尊い支援に当日参会の皆様に募金を呼びかけたところ、多額の浄財が寄せられ、一部当会の基金を加え 10 万余円を差し上げることができました。ここに改めて厚い感謝を申し上げます。

「環境に学ぶ」講演会　　みよし推進協議会

みよし推進協議会幹事　河合俊彦

２０２２年１２月１７日、愛知県みよし市内において、オイスカみよし推進協議会主催の講演会が行われました。

講演では、本部・啓発普及部ＧＳＭ担当部長の吉田俊通氏から宮城県名取市で進む東日本大震災復興支援「海岸林再生プロジェクト」のこれまでの活動や現在の取り組み状況のほか、海外での緑化プロジェクトについて Eco-DRR（生態系を活用した防災・減災）の観点からお話しされました。

また、本部・啓発普及部のマリア・グラゼン・アセリット氏からは、出身国であるフィリピンのルソン島北部、アブラ州で進むオイスカの環境保全や技能実習生の派遣取り組みなどについて報告されました。2011 年３月１１日の東日本大震災直後の３月１４日には、復興への支援が動き始めたリアルな体験をお聞きすることができた。苗からクロマツを育て、その地に耐えうる松だけの海岸林にまで育て上げる計画を聞いたとき、私たちの知識も技術も取り組みも長い時間を費やす作業だと実感した。講演では、身近にわかる生物多様性についても興味深い報告もあった。みよし市内では、市民活動としていくつかのグループが、自然環境とそこで暮らす住民とが関わる活動が、多世代にわたって身近な活動になってきた。私も所属するＮＰＯ法人みよしの自然環境を守る会では、園児から大学生も参加する生物多様性を体験できる田んぼビオトープや里山づくりから絶滅危惧の植物、生物などが確認できる環境をつくっている。そこで今回の講演では、防災の為の、塩害に耐えうる海岸林としてクロマツを一帯に整備したことからも、公的調査からも猛禽類１２種をはじめ、草木類で２７０種、昆虫生物類で２７０種、鳥類５０種、実際には越える種が確認出来る地になっていると報告された。愛知県の渥美半島をはじめ、Ｅｃｏ－ＤＲＲ、普及がわかる事業が、身近になり、多くあるということも報告を受けた。フィリピンのマングローブをはじめ、森の喪失からその復興事業の成果は、お聞きしていたところだった。今回、国の法律、政策も関わってくることと、「子どもの森」の発想は、未来がみえてくるプロジェクトだと感じた。「大人の勝手にはさせない」という力強さがみえる。身近に感じ取れたのが、地元の人々との関わり、理解が大切になってくると感じた。

豊田東高校との交流

12 月 15 日（木）豊田東高校を訪問してきました。選択授業の時間で外国語に興味のある生徒達 40 名ほどと交流をしました。まずは、研修生・技能生よりパワーポイントを使って国の紹介をし、その後グループに分かれて高校生たちが考えた日本にまつわるクイズを出してもらいました。研修生たちは初めて耳にする言葉に戸惑いながらも一生懸命考え、それを周りの高校生たちが英語を使ってヒントを出しなどしてサポートし交流を深めていました。

折り紙や早口言葉も教えてもらい、研修生、高校生のみなさんもとても楽しそうにしており、楽しい時間となりました。招待してくださった豊田東高校の皆様ありがとうございました。　　中村仁美（筆）

上鷹見小学校との交流

12 月 13 日（火）に上鷹見小学校へ訪問してきました。校舎につくと元気な生徒たちに迎えられ、校長室に案内されました。今日は「やさしい日本語」をつかってわかりやすいことばで外国人に話してくれるということで、みんな言葉を言い換えたり、考えながらゆっくり話したりしてくれました。学校内を案内してくれる時は、観光地のガイドさんのように一生懸命話してくれました。オイスカの研修生たちもかわいい生徒さんたちを弟や妹を見るような優しい目で見ているのが印象的でした。最後は恒例のチキンダンスで交流終了。いつもと違った特別な時間を持てました。　宗像ジュイエ（筆）

１２月研修生の活動　グレゴリー(筆)

白菜の植え付け

スナップエンドウの種まき

サトイモの収穫

レモン木の管理

クリスマス会

ホワイトクリスマス

餅つき

更新会員名簿（702／820）

安城（63／71）安成工業 株式会社
岡崎（24／29）株式会社 林成宜商店
合資会社 新生社、小久井正秋
知立（5／1）鈴木恭子
豊田（186／229）若山佳介、豊緑化技研 株式会社、坂元玲介、桜電設 株式会社、株式会社 豊田スタジアム、株式会社ミクロ技研工業、酒井秀夫、アンシン建設工業 株式会社、後藤敦司
名古屋（53／70）おこのみ焼三五、株式会社 アイシン、有限会社 タイヨーペイント、豊田合成 株式会社
名古屋東（29／23）株式会社 リアル、株式会社 野田スクリーン、大新運輸 有限会社、天神山電設 株式会社、株式会社ヘイシン、株式会社 タカギスチール、弥栄工業 株式会社、株式会社 エアーサプライ、サンスリー 株式会社、株式会社 ヤマダ電子工業
名古屋北（26／21）株式会社 田中装具店、株式会社 未来サポート、宮口守廣、藤建興業 株式会社
丹羽（59／60）大前温子、水野友之、福玉精穀倉庫 株式会社、田中志典、生興株式会社
センター（29／46）高山亜美
（十一月末までの入金を掲載）

新入会（個人）

小久井正秋(岡崎市)
株式会社 藤恵

寄付金

松岡美江子(桑名市)
株式会社 寿恵弘(豊田市)
一般財団法人 タイム技研社会貢献委員会(丹羽郡大口町)
磯貝正隆(高浜市)
杉田ふじる(岡崎市)
光岡保之(豊田市)
浅野奈々穂(神奈川県相模原市)
鈴木きよみ(碧南市)
株式会社 ヤマワ(岐阜県各務原市)
神野重行(名古屋市)
柴田賢市(豊田市)
鰐部兼道(みよし市)
阿部克彦(刈谷市)
野口里美(豊田市)
オイスカ三重推進協議会(三重県四日市市)
浪速金液 株式会社(名古屋市)
酒向淳治(豊田市)
知立神社(知立市)
ヤマフ土地(半田市)
村松明(西尾市)
株式会社 maruichi(犬山市)
沼田昭雄(名古屋市)
市原さおり(名古屋市)
株式会社 村金(丹羽郡大口町)
村上典子(江南市)
大豊工業 株式会社(豊田市)
増岡吉尚(みよし市)
株式会社 ダイムラック(東海市)
杉浦房市(高浜市)
東洋金属 株式会社(丹羽郡扶桑町)
和合精機 株式会社(豊田市)
久代利通(岡崎市)
加藤みつ子(豊田市)
黒田啓介(名古屋市)
伊藤安信(みよし市)
加藤悟(名古屋市)

寄付品

亀屋商事 株式会社(羽島郡岐南町)
トヨタファーム(豊田市)
光岡保之(豊田市)
松石裕就(名古屋市)
太啓建設 株式会社(豊田市)
野中慎吾(豊田市)
日本モウルド工業 株式会社(安城市)
株式会社 サンコー(みよし市)
東洋金属 株式会社(丹羽郡扶桑町)
公益財団法人豊田市スポーツ協会(豊

インクカートリッジ

中村浩之(豊田市)

書き損じはがき

村上典子(江南市)

技能研修生修了式

12月27日三登建設へ赴任するザムリ君の基礎研修修了式が行われました。1月6日に三登建設に発ちます。